

の有効求人倍率は、55～59歳で0.23倍、60～64歳で0.19倍、65歳以上で0.75倍となっており、年齢層を問わず厳しい雇用情勢（全年齢合わせた完全失業率は5.3%、有効求人倍率は0.70倍）の中にあっても、高齢者、とりわけ60～64歳の年齢層の雇用情勢は極めて厳しいものとなっている（図1-2-27）。

3 高齢者と健康・福祉

(1) 高齢者の健康

ア 健康状態

高齢者の健康状態についてみると、平成13（2001）年における65歳以上の高齢者（入院者を除く。）の有訴者率（人口1,000人当たりの病気やけが等で自覚症状のある者の数）は502.7と半数以上の者が自覚症状を訴えている。

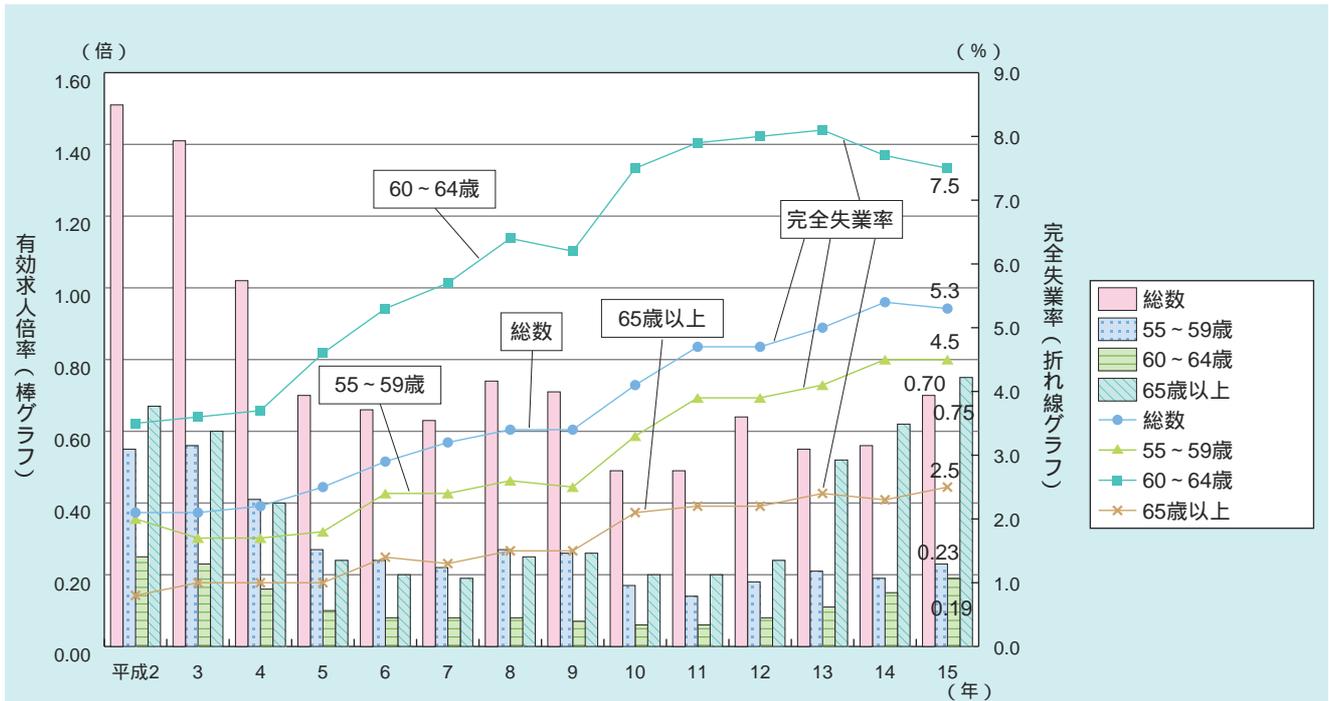
一方、日常生活に影響のある65歳以上の高齢者（健康上の問題で、日常生活の動作・外

表1-2-26 高齢就業希望者の就業希望理由別割合（若年層参考掲載）

		(%)							
		失業している	学校を卒業した	収入を得る必要が生じた	知識や技能を生かしたい	社会に出たい	時間に余裕ができた	健康を維持したい	その他
男	65歳以上	14.7	0.0	19.7	17.3	4.3	6.9	28.6	8.3
	65～74歳	15.4	0.0	20.2	17.0	4.3	7.2	27.7	8.0
	75歳以上	5.2	-	14.1	22.0	3.7	2.6	40.3	12.0
	(参考) 35～64歳	64.6	0.1	10.6	7.5	2.7	2.7	6.6	5.2
女	65歳以上	8.0	0.0	31.4	6.4	4.1	12.3	26.1	11.4
	65～74歳	8.4	0.0	31.5	6.3	4.1	12.2	26.0	11.1
	75歳以上	2.2	-	29.0	7.5	5.4	14.0	26.9	16.1
	(参考) 35～64歳	21.5	0.0	35.2	7.5	6.7	16.6	5.3	7.0

資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査（平成15年）」

図1-2-27 年齢階級別にみた完全失業率、有効求人倍率



資料：総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」
 (注)「完全失業率」は年平均、「有効求人倍率」は各年10月の値である。

出・仕事・家事・学業・運動・スポーツ等に影響のある者。入院者を除く。)の割合は、平成13(2001)年において、高齢者人口1,000人当たりで235.0と、有訴者の割合と比べると半分以下となっている。これを年齢別、男女別にみると、年齢層が高いほど大きく上昇し、またいずれの年齢層においても女性が男性を上回っている(図1-2-28)。

この日常生活への影響を内容別にみると、外出(時間や作業量などが制限される)が104.1、日常生活動作(起床、衣服着脱、食事、入浴など)が102.4と高くなっており、次いで仕事・家事・学業(時間や作業量などが制限される)が92.7、運動・スポーツ等が62.3となっている。男女別では、男性は日常生活動作、女性は外出が最も高くなっている(図1-2-29)。

高齢者の健康についての意識をみると、「よい」「まあよい」「ふつう」と思っている者の割合(入院者を除く。)は、男女とも、65~74歳では3分の2以上、85歳以上でも2分の1以上を占めている(図1-2-30)。

これを先にみた高齢者の有訴者率と比較すると、高齢者は、何らかの自覚症状があっても、必ずしも健康状態を悪いと意識しているわけではないことがうかがえる。

イ 健康の維持増進のために心掛けていること

健康の維持増進のために日ごろ心掛けていることについてみると、「休養や睡眠を十分とる」が60.4%と最も高く、次いで「規則正しい生活を送る」53.0%、「栄養のバランスのとれた食事をとる」49.5%の順となっている(図1-

図1-2-28 65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者の率

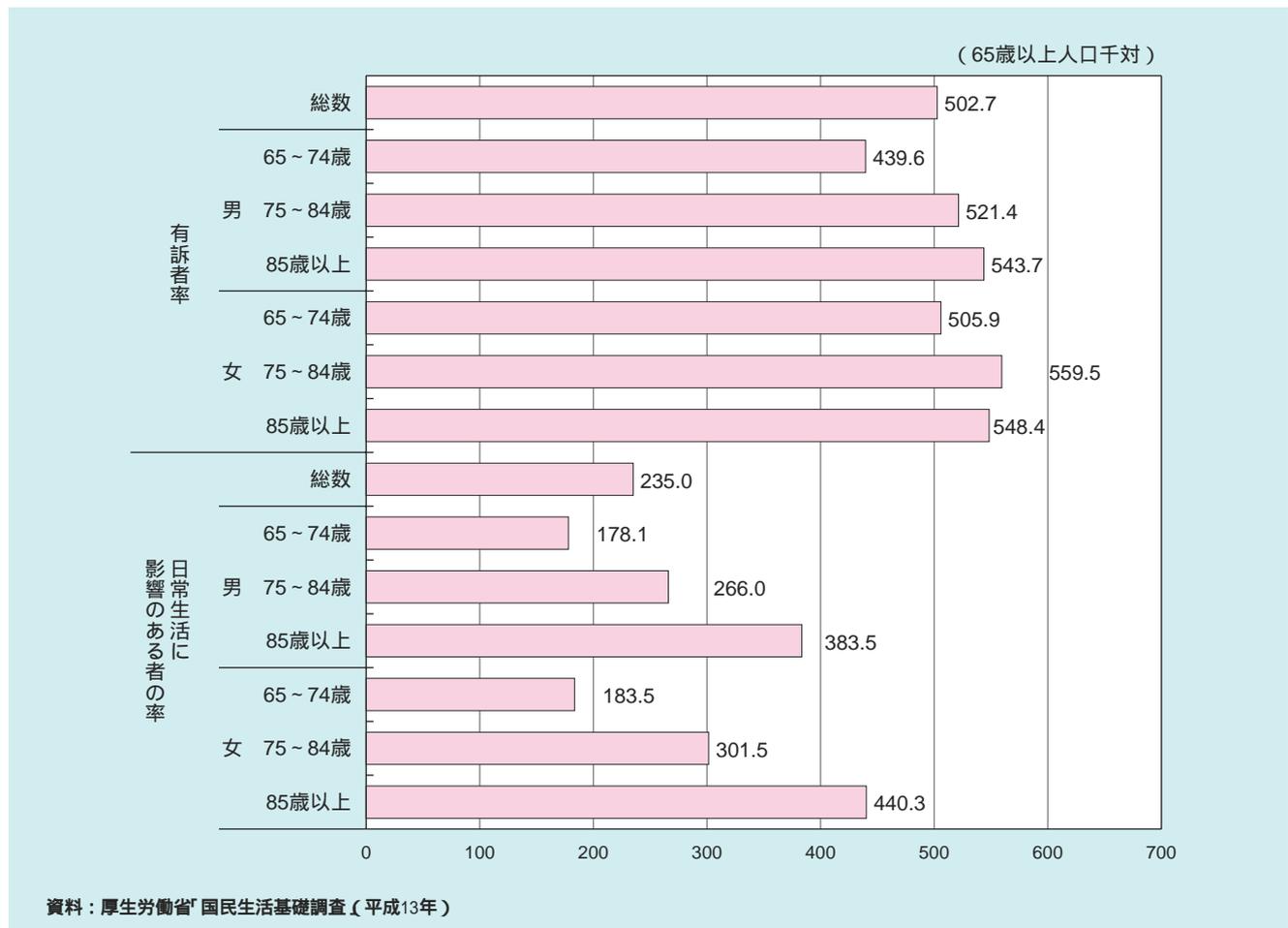


図1 - 2 - 29 日常生活に影響のある者の率

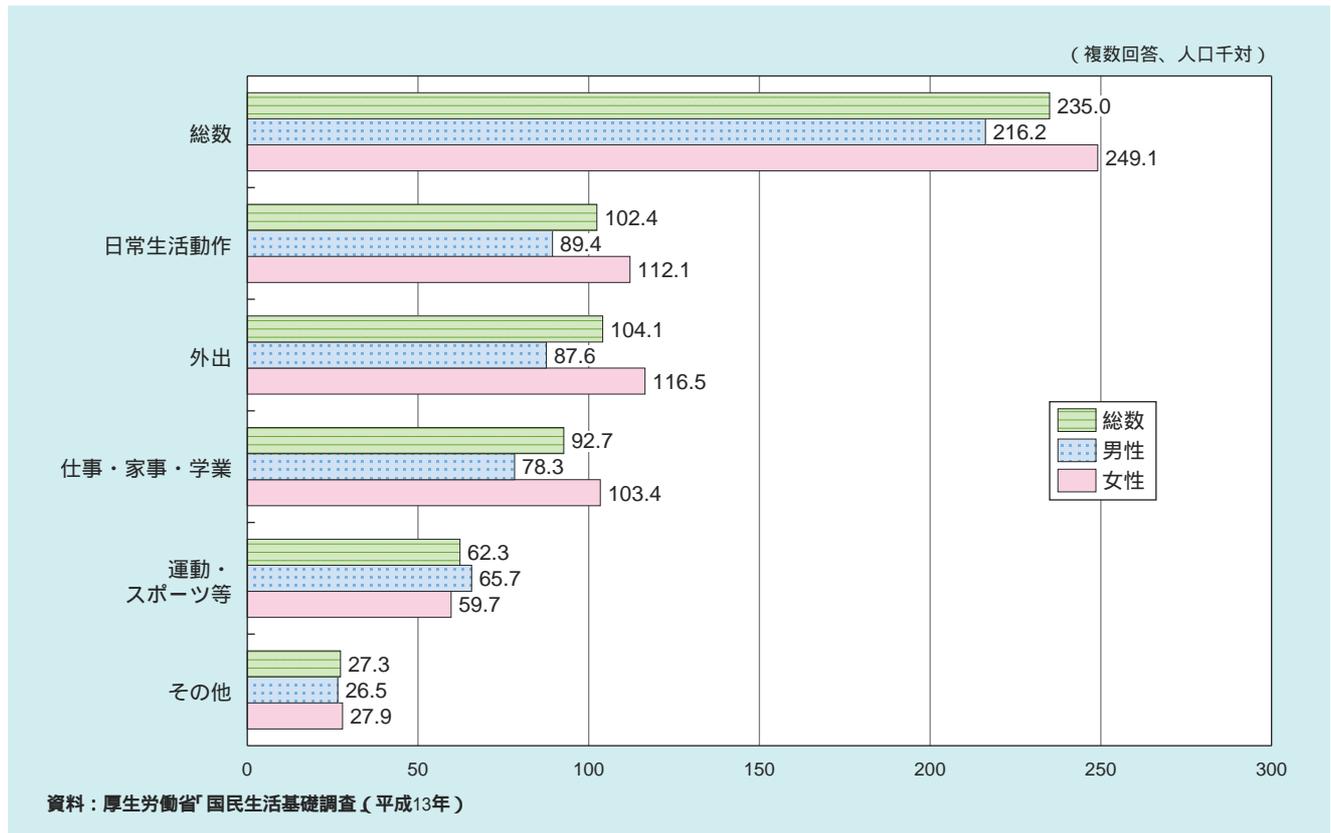


図1 - 2 - 30 健康についての意識

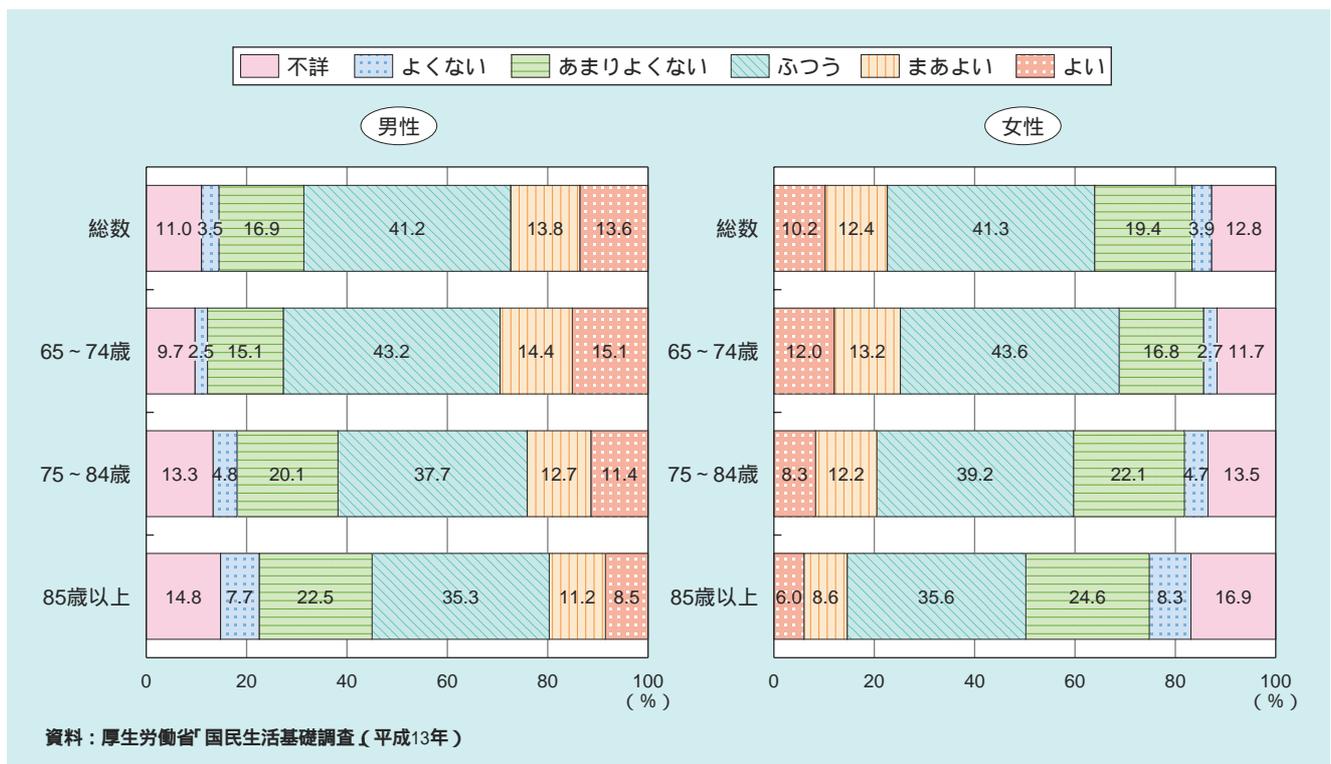


図1-2-31 健康の維持増進のために心掛けていることの内容

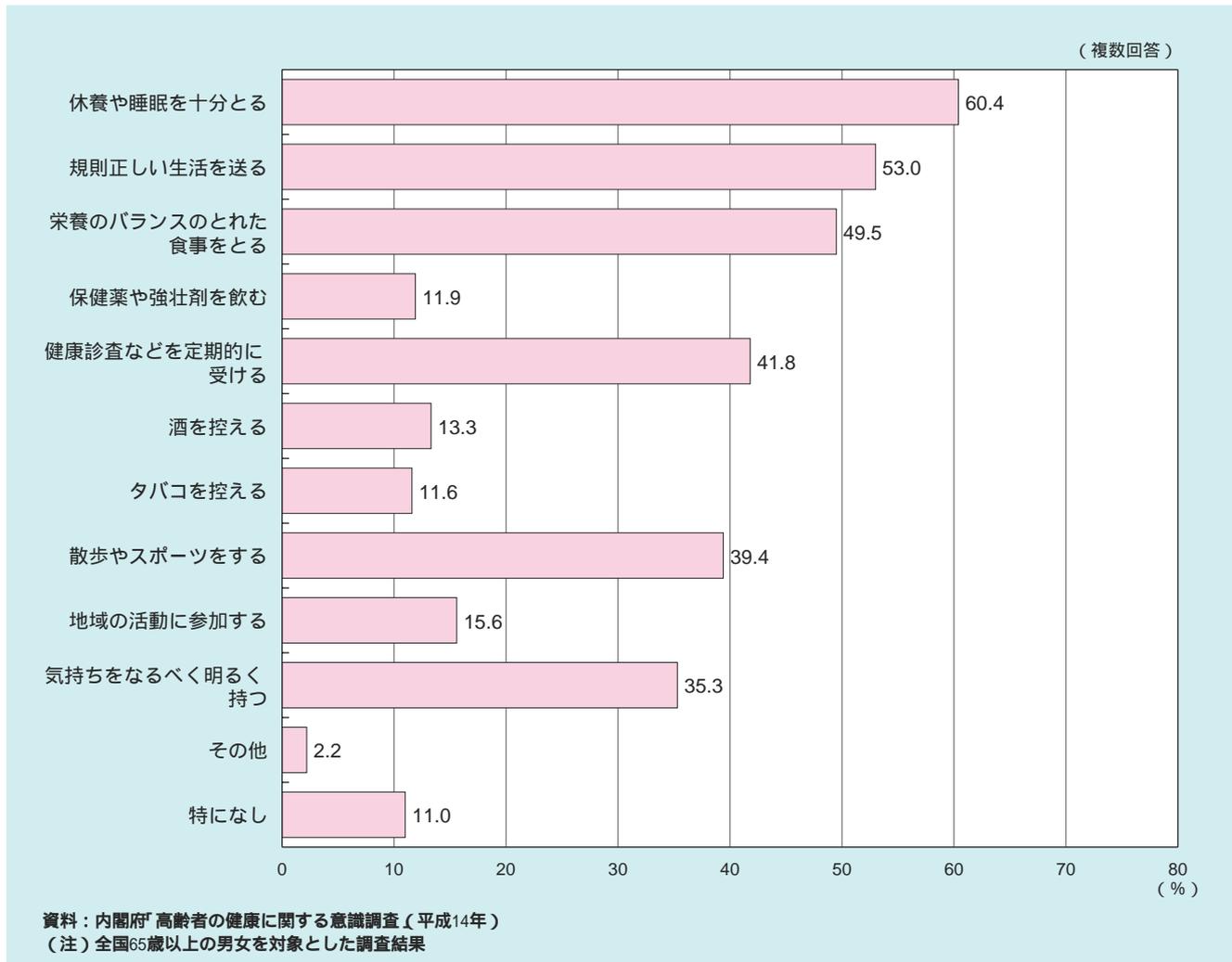


表1-2-32 過去1年間の健康診断等の受診状況

世帯人員数（単位：千人）

年齢階級	総数	過去1年間に健康診断や人間ドックを受けたことがある	受けたことがない
総数	97,307 (100.0)	58,745 (60.4)	34,370 (35.3)
20～24歳	7,394 (100.0)	3,313 (44.8)	3,778 (51.1)
25～34	16,799 (100.0)	8,746 (52.1)	7,591 (45.2)
35～44	15,335 (100.0)	9,313 (60.7)	5,635 (36.7)
45～54	19,338 (100.0)	12,837 (66.4)	5,979 (30.9)
55～64	16,151 (100.0)	10,801 (66.9)	4,676 (29.0)
65～74	13,535 (100.0)	8,843 (65.3)	3,782 (27.9)
75～84	6,771 (100.0)	3,974 (58.7)	2,132 (31.5)
85歳以上	1,984 (100.0)	917 (46.2)	797 (40.2)
(再掲) 65歳以上	22,290 (100.0)	13,734 (61.6)	6,710 (30.1)

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査（平成13年）」
 （注）健康診断等の受診状況の「総数」には「不詳」を含む。
 （ ）内は「総数」に対する構成割合（単位：%）

2 - 31)。

また、健康診断等の受診についてみると、65歳以上の高齢者の約6割の者が、過去1年間に健康診断や人間ドックを受けたことがあるとしている(表1 - 2 - 32)。

ウ 傷病状況

65歳以上の高齢者人口10万人当たりの推計患者数の割合を示す受療率は、平成14(2002)

年において、入院が3,706、外来が1万1,481となっている。これは、調査日に、65歳以上の高齢者の3.7%が入院しており、11.5%が外来を受診していることを示している。他の年齢階級に比べて高い水準であるが、近年は安定的に推移している(図1 - 2 - 33)。

高齢者の受療率が高い主な傷病をみると、入院では、脳血管疾患(男性718、女性900)、悪性新生物(がん)(男性520、女性263)となっ

図1 - 2 - 33 受療率の推移

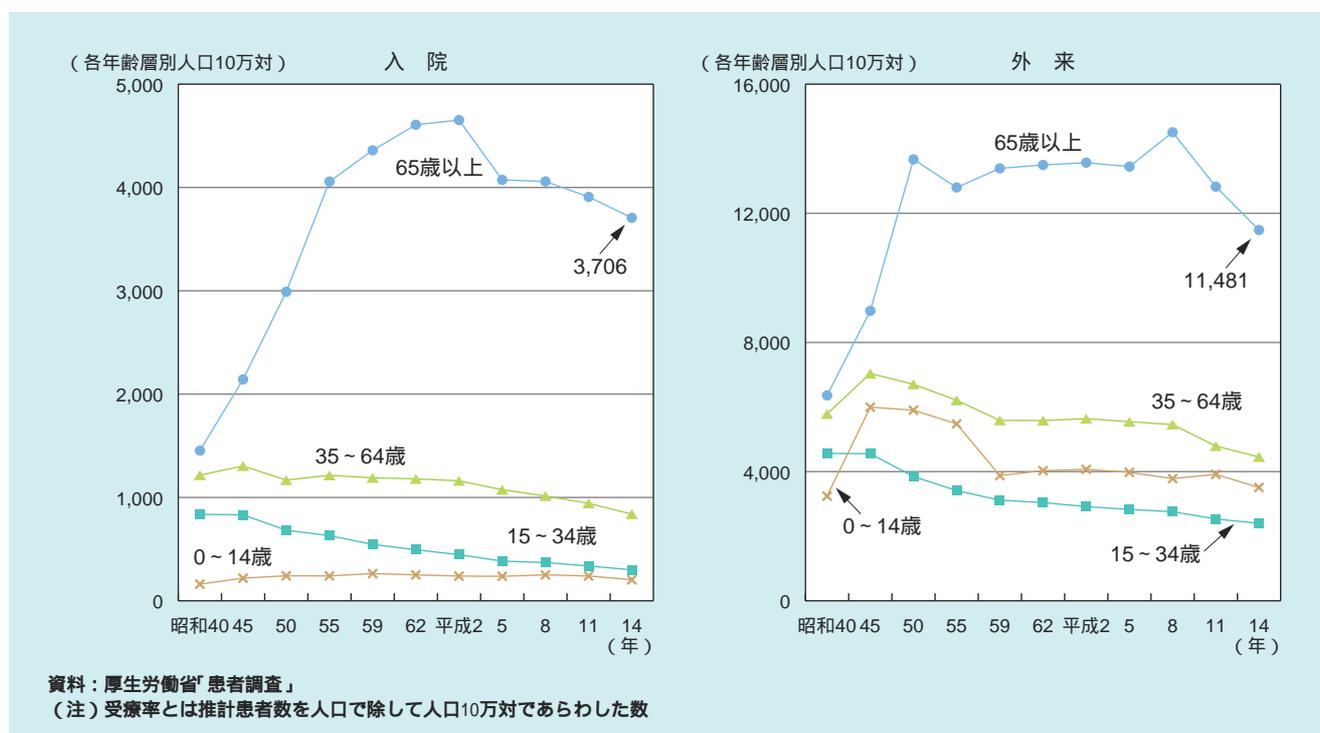


表1 - 2 - 34 主な傷病別にみた受療率(人口10万対)

		男			女		
		65歳以上	65~74歳	75歳以上	65歳以上	65~74歳	75歳以上
入院	総数	3,518	2,593	5,127	3,843	1,940	6,000
	悪性新生物	520	455	635	263	218	314
	高血圧性疾患	28	15	52	68	16	127
	心疾患(高血圧性のものを除く)	188	115	316	222	70	393
	脳血管疾患	718	434	1,210	900	277	1,606
外来	総数	10,858	9,879	12,561	11,935	11,414	12,525
	悪性新生物	419	371	504	208	216	199
	高血圧性疾患	1,368	1,229	1,609	1,953	1,636	2,311
	心疾患(高血圧性のものを除く)	466	357	655	419	270	589
	脳血管疾患	454	346	644	382	240	543
	脊柱障害	1,174	1,007	1,465	1,269	1,190	1,359

資料：厚生労働省「患者調査(平成14年)より作成
 (注) 受療率とは推計患者数を人口で除して人口10万対であらわした数

ている。外来では、高血圧性疾患（男性1,368、女性1,953）、脊柱障害（男性1,174、女性1,269）となっている（表1-2-34）

高齢者の死因となった疾病をみると、65歳以上の高齢者人口10万人当たりに対する死亡者数を示す死亡率は、平成14（2002）年において、

がんが972.8と最も高く、次いで心疾患553.6、脳血管疾患484.4の順になっており、これら三つの疾病で高齢者の死因の6割を占めている（図1-2-35）

図1-2-35 65歳以上の高齢者の主な死因別死亡率の推移

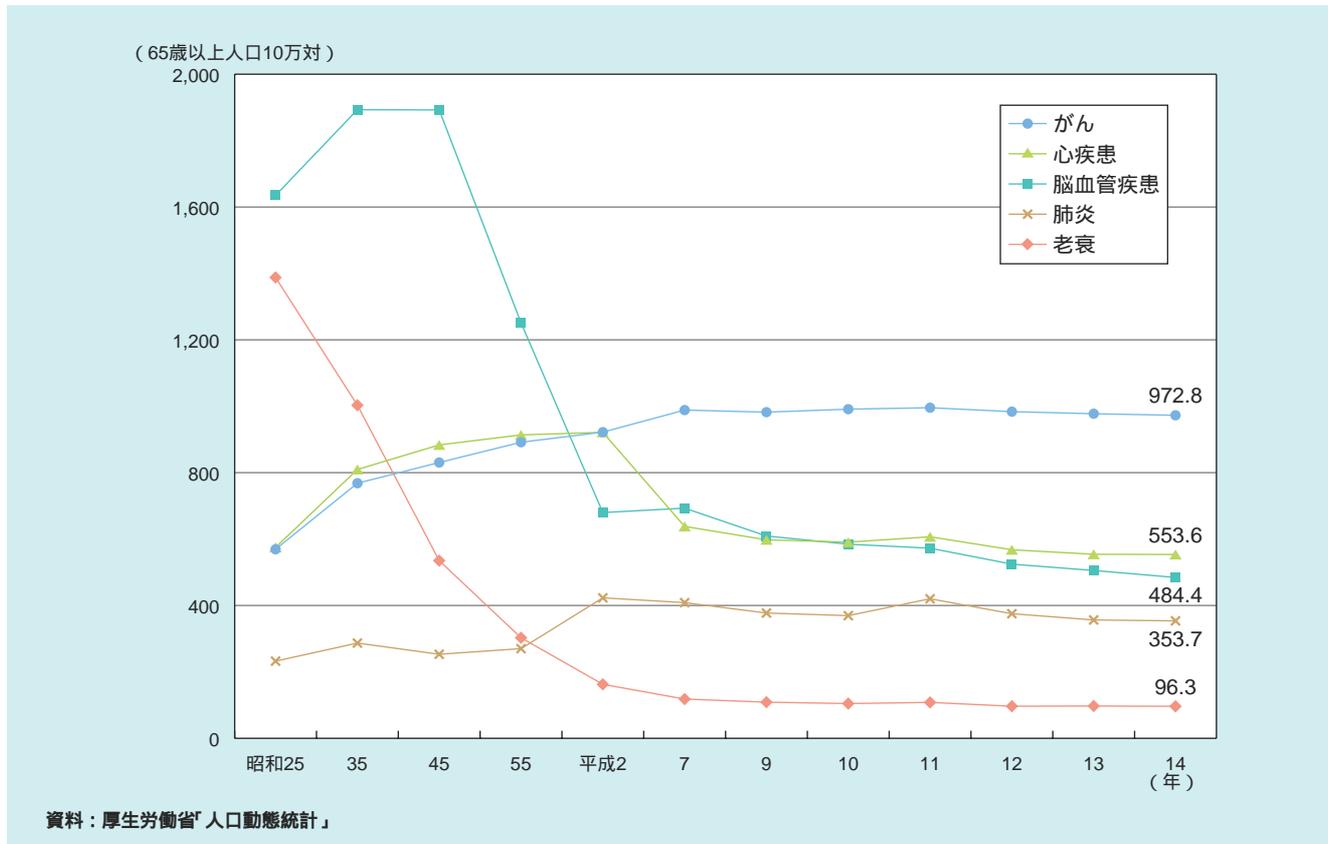


表1-2-36 要介護等高齢者の状況（要介護等認定者数）

(単位: 人)							
	認定者総数	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
被保険者総数	3,445,186 (100.0)	498,992 (14.5)	1,056,269 (30.7)	635,834 (18.5)	425,712 (12.4)	419,292 (12.2)	409,087 (11.9)
うち第1号被保険者 (65歳以上の認定者)	3,324,156 (100.0)	492,979 (14.8)	1,022,487 (30.8)	604,853 (18.2)	408,350 (12.3)	405,036 (12.2)	390,451 (11.7)
うち65～74歳	600,225 (100.0)	95,856 (16.0)	187,691 (31.3)	116,200 (19.4)	70,328 (11.7)	63,362 (10.6)	66,788 (11.1)
75歳以上	2,723,931 (100.0)	397,123 (14.6)	834,796 (30.6)	488,653 (17.9)	338,022 (12.4)	341,674 (12.5)	323,663 (11.9)

資料：厚生労働省「平成14年度介護保険事業状況報告年報」
 (注1) 平成14年度末現在
 (注2) ()内は認定者総数に占める割合(単位: %)